

1. 略歴

- 1986年3月 東京大学文学部国史学科卒業
1992年3月 東京大学大学院人文科学研究科国史学専攻博士課程修了
(1995年3月 博士(文学)学位取得)
1992年4月 東京大学社会科学研究所助手
1994年4月 東京大学教養学部助教授
1996年1月 ドイツ、ボーフム大学 (Ruhr-Universität Bochum) 客員教授 (~1996年10月)
1996年4月 東京大学大学院総合文化研究科助教授 (大学院重点化による)
1999年10月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007年4月 同准教授
2012年8月 同教授
2012年8月 米国、イェール大学 (Yale University) 客員研究員 (~2013年3月)

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本近代史

b 研究課題

明治期の機械工業が元来の研究課題。新技術の導入が社会をどのように変えて行くのかという問題関心を中心に、史料に即した明治・大正期の再検討を心がけている。

c 概要と自己評価

共同研究や内外のシンポジウム等に参加して、従来より幅広く対象をとらえることができるようになり、産業遺産の研究でも多くの知見を得られたが、手を広げすぎて多忙なため、検討を深め、また体系的に成果を提示することが課題となっている。

d 主要業績

(1) 著書

共著、小林和幸編著『明治史研究の最前線』、筑摩書房、2020.1、187-200頁執筆

(2) 論文

鈴木淳、「煙突と電柱の立ち並ぶ街—明治期東京の技術と生活」、お茶の水女子大学『比較日本学教育研究部門』第15号、2019.3、27-37頁

鈴木淳、「東京大学における日本史学と古典講習科」、2014-2018年多分野交流演習「東京大学草創期の授業再現」報告集『東京大学草創期とその周辺』東京大学大学院人文社会系研究科、2019.3、120-135頁

鈴木淳、「大正期の飛行熱」、高田馨里編著『航空の二〇世紀—航空熱・世界大戦・冷戦』、日本経済評論社、2020.3、47-77頁

Suzuki Jun (translated by David De Cooman), The Japanese Army Artillery and Engineering Officers's Study Visits to Europe and the "Japanese-German War", Jan Schmidt, Katja Schmidtpott (eds.), *The East Asian Dimension of the First World War*, Campus Verlag, Frankfurt/New York, 2020.2, pp.313-330

(3) 書評

「沢井実著『見えない産業—酸素が支えた日本の工業化』、『経営史学』54巻2号、2019.9、49-51頁

「ガラ紡を学ぶ会編著『臥雲辰致・日本独創のガラ紡—その遺伝子を受け継ぐ』、『技術と文明』22巻2号、2019.10、63-69頁

(4) 学会発表

海外、「19世紀後半の日本に於ける汽罐製造技術の生成と普及」、2018.9.19、国際研究集会

International Symposium: Generation and Dissemination of Technical Knowledge in Japan from Edo- to Meiji-Period, Centre Européen d'Études Japonaises d'Alsace (CEEJA) アルザス・欧州日本学研究所

海外、「大学での機械工学教育の創始と日本産業革命の中での卒業生たちの役割」、2019.9.21、国際研究集会

International Symposium: Knowledge in Move, Formalization of Technical Know-how and the Creation of Technical Education in Meiji Japan (Project: From Craftsman to Engineer II), Centre Européen d'Études Japonaises d'Alsace (CEEJA)

海外、「世界文化遺産富岡製糸場の研究を通じて判明したヨーロッパ式技術の日本への移転の困難」2016.9.26、イタリア日本研究学会招待講演 XVIII Convegno di Studi sul Giappone, AISTUGIA, Università Degli Studi di Napoli “L’Orientale”

(5) 啓蒙

鈴木淳、「基調講演」、レンガドック活用イベント実行委員会『レンガドック 120 周年×浦賀奉行所開設プレ 300 周年記念シンポジウム 浦賀のまちと歴史資産について ～レンガドックと奉行所、それらを繋ぐ流れは何か～』、2020.3、6-26 頁

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、史学会、理事、2016.10～2019.10

国内、日本産業技術史学会、理事、2009.5～、副会長、2017.5～

国内、政治経済学・経済史学会、編集委員、2009.1～、理事、2017.10～

(2) 行政

省庁、文化庁、文化審議会専門委員、2014.3～